

記念講演
講師

「古名刀の再現への挑戦
日本刀剣保存協会無鑑査

科学する刀鍛冶」四月十四日（日曜日）午後二時 会場
広島県無形文化財 久保善博刀匠 定員八〇名先着順

古河歴史博物館研修室

同日イベント 小中学生親子対象講座 午前十時～十二時
「日本刀を持ってみよう」二十組先着順

華麗なる日本刀

備前刀の伝統

鎌倉時代から
現代まで



後藤法橋一乘



備前国助包（古備前）



備前国長船住兼光（重要美術品）

長光（重要美術品）

2019

3.16—5.6

開館時間9時～17時（入館16時30分迄）

休館日4月25日（木）、26日（金）

入館料 一般：400円

小中高：100円

古河歴史博物館

茨城県古河市中央町3丁目10番56号

TEL 0280-22-5211

FAX 0280-22-5215

日本の歴史的文化遺産の中で、日本刀は武器としての優れた機能と高雅な品位を備え、さらに武士の魂と云われたほどの精神性を象徴する鉄の芸術品として世界的にも高く評価されています。備前国は中国山脈から最も良質な砂鉄を豊富に産出したことから平安時代後期から鎌倉時代にかけて古備前と称する一群の刀工が活躍し、以後この地の福岡、長船、吉岡、畠田、片山、大宮、吉井、宇甘などに名工が輩出して備前鍛冶の繁栄を極めました。日本刀のメッカとも称される所以であります。

刀剣の鍛冶の技法には五ヶ伝というのがありますが、これは初期の刀剣主要生産地である山城、大和、備前、相模、美濃の五ヶ国の鍛法(流派)を指しています。江戸時代に入ると刀剣の鍛冶はこの五ヶ国に限らず各藩の城下で造られるようになりましたが、その技法は古来の鍛冶を受け継いでおります。その中で最も広く伝承されているのが備前伝であり現代の刀匠達も鎌倉時代の名刀を目標に研究し日夜鍛錬に励んでおります。今回の展示は鎌倉時代から室町時代までの備前刀の名品と江戸時代の名工の備前伝の作品、そして情熱あふれる現代刀匠の備前伝の力作まで一つの流れとして備前伝の伝統を鑑賞いただけるよう企画いたしました。どうぞこの機会に日本の伝統工芸の素晴らしさをお楽しみ下さい。

< 展示資料一覧 >

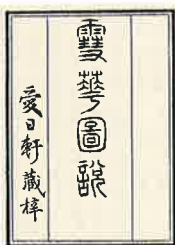
備前国助包(古備前) 拵え付、安則(古一文字、閑院宮家伝来) 吉房、片山一文字、光忠、本阿弥光忠極無銘光忠、景秀、**重要美術品**長光、(黒田家伝来)長光(伊藤巳代治伯旧蔵)、備州長口口景光、備前国長(近景)(佐竹家伝来、拵え付)、**重要美術品**備前国長船住兼光(伊達家伝来)備州長船倫光、備州長船長義(紀州家伝来、拵え付)備州長船盛景(拵え付)、備州長船守久(拵え付)、備前国住長船左京進宗光長船次郎左衛門尉勝光(永井家伝来、拵え付)備前国長船彦左衛門尉祐定作(拵え付)、備前国住長船彦左衛門尉祐定作之也(両刃短刀拵え付)、**重要美術品**出羽国大慶庄司直胤、心杉原軍記正包望造之、応古河侯命固山宗次、天保十一年、大小(土井家伝来)、吉岡因幡介大小一作拵、作陽幕下士細川正義行年七十有二歳、於古河城中泰龍齋宗寛彫同作(拵え付、土井家伝来)善博(高松宮記念賞受章)後藤一乗大小鐔、宇多国宗短刀(拵え付、館蔵品研磨補修披露)

< 出品協力(敬称略) >

石橋政勇、牛窪宏次、黒川精吉、久保善博、瀬下明、瀬下昌彦、冥賀吉也、冥賀亮典、皆川弘衛、吉岡勝次郎、服部徹也、渡辺久弥



銘 後藤法橋一乗



後藤一乗は『雪華図説』を著した古河藩主土井利位から佩刀の鐔に雪華文の製作を命じられました。これ以後、鐔、縁頭、鞘塗りに雪華模様が流行しました。



銘 吉岡因幡介、大小鐔



久保善博日本刀鍛錬道場
(広島県庄原市)

記念講演「古名刀の再現への挑戦 科学する刀鍛冶」

講師 日本美術刀剣保存協会無鑑査 久保 善博 刀匠
広島県無形文化財

日時 2019年4月14日(日曜日)午後2時~4時
会場 古河歴史博物館研修室 定員 80名先着順



同日イベント 日本刀を持ってみよう

日時 2019年4月14日(日)午前10時~12時
対象 親子(小中学生と保護者)定員:20組先着順(事前予約)
講師 古河市剣道連盟居合道部指導員 会場 企画展示室

<古河歴史博物館>

〒306-0033 茨城県古河市中央町3丁目10番56号
TEL0280-22-5211 FAX0280-22-5215
交通案内 JR宇都宮線 古河駅徒歩 15分
東武日光線 新古河駅徒歩 20分
同時開催 古河公方公園桃まつり(3月20日~4月5日)

